

平成27年度第3回総合教育会議 会議録

開催日時	平成27年11月17日(火) 午後1時30分				
開催場所	湯津上庁舎102会議室				
会議出席状況	市長	津久井富雄	出席		
	教育委員	小高一紘	出席	深澤道昭	出席
		日原悠子	出席	車田宏之	出席
		川上聖子	出席		
	教育長	植竹福二	出席		
	庶務	教育部長	奥村昌美	教育総務課長	益子正幸
		教育総務課	小林真由美・渡邊政典		

次 第

- 1 開 会 午後1時30分
- 2 あいさつ 市 長
- 3 議 事 スポーツ振興課所管事業について
 - (1) 大田原マラソン大会について
 - (2) 芭蕉の里くろばねマラソン大会について
- 4 そ の 他 特になし
- 5 閉 会 午後2時25分
- 6 会議の要旨 次のとおり

平成27年度 第4回大田原市総合教育会議

平成27年11月17日(火)

午後1時30分

大田原市役所湯津上庁舎

102会議室

1 開会

2 あいさつ

3 議題 スポーツ振興課所管事業より

(1) 大田原マラソン大会について

(2) 芭蕉の里くろばねマラソン大会について

4 その他

5 閉 会

平成27年度第4回大田原市総合教育会議 発言要旨

平成27年11月17日(火)

開会：午後1時30分

- 教育部長 定刻となりましたので、ただいまから、平成27年度第4回 大田原市総合教育会議を開会いたします。
私は教育部長の奥村でございます。本日の進行を務めさせていただきます。
初めに、本会議の主催者であります、津久井市長があいさつを申し上げます。
- 市 長 (市長あいさつ)
- 教育部長 ありがとうございます。
- 教育部長 それでは、次第の3 議題について協議していただきます。ここからの議事進行は、大田原市総合教育会議設置要綱第4条第1項の規定に基づき、津久井市長が行います。
- 市 長 円滑な議事運営に努めさせていただきたいと思っておりますので、御協力のほどよろしくお願いいたします。
本日の議題は次第3に記載のとおり、大田原マラソン大会、芭蕉の里くろばねマラソン大会についての2件でございます。
- 毎年11月23日と12月23日に開催している2つのマラソン大会について取り上げ、それぞれの大会の概要等についてご説明申し上げます。
説明の後、皆様からご意見、ご感想をお聞かせいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。
概要等について、事務局で一括して説明をお願いいたします。
- 事務局(スポーツ振興課) **大田原マラソン大会の概要**
若手のマラソンランナーの育成を目的に始まり、
・昭和63年第1回から今年で第28回目を迎える。
・当初約1,800名の参加者からスタートした。
・現在マラソンの部、10kmの部併せて約5,000名の参加者がある。(当初比3倍程度となっている)
・県内唯一の日本陸連公認コースとなっている。
- ・完走設定タイムが4時間以内と厳しくなっており、全国的にも珍しく、山口県防府市(約1,700名規模)の2大会ほどしかない。
・愛好家からも競技性の高い大会と評価をいただいている。
- ・月刊ランナーズというスポーツ雑誌において全国ランニング大会100選にも18年連続選出されており、知名度も高まっている。
・公認コースは5年に1度コースの更新が行われ、本年度更新手続きを行いましたので、今年を含めて5年間は公認コースとして大会を実施できることになっております。

○事務局（スポーツ振興課）

・エントリー状況の内訳は、全4,952名のうち県内は1,062名、そのうち市内は201名となっており、第27回大会より地元優先枠を設けることになり、他県の方よりも早く受付を行っております。

・上位入賞者には、パリマラソン大会への派遣を行っております。また、昨年第39回パリマラソンで派遣した選手の男女とも最高タイムを更新しております。

・来春開催のパリマラソンについて、現在テロの影響について情報を収集しております。

・毎年改善を行い、今年はスムーズなスタートを実施するために自己申告制ですが、タイムの早い順にいくつかのブロック分けを行いスタートを実施することとなっております。

・前日、当日の受付を取りやめ、ゼッケンや計測チップを事前に送付することで、選手の朝の混雑や煩わしさを解消できるものと考えております。

・計測チップは大会オリジナルチップとなっており、裏面に記録を入れることもできるようになっております。

・小物を入れるショルダーバック（ビニール製）、Tシャツを配布しており、これは市との連携事業を実施している文星芸術大学の学生がデザインをしております。

・10kmの部については、1km毎に表示版を設置し、選手の目安といたします。

・NHKのBS放送で放映されております「ランスマ」という番組で参加、取材を行う予定となっております。

・運営面や選手へのサービス向上を毎年行っており、安全面についても力を入れております。

・課題としては、定員が5,000名というところであり、実際に走るのは80%前後ですので、もう少しエントリーを増加することも考えられるのかと思います。

次に芭蕉の里くろばねマラソン大会についてですが、今年で第43回目を迎え、おおよそ半世紀近く歴史のある大会であります。

・旧黒羽町時代の昭和47年1月15日成人の日には第1回が開催され、現在は毎年12月23日の開催に変更となっており、これは、平成10年の第26回大会からとなっております。理由としましては、降雪による大会の中止が予想されたことによるものだそうです。

・毎年1,500名程度の参加者がおり、本年度は1,712名となっております。

・14クラスを設け、一般の部から親子ペア、小中学生と幅広い世代の参加者によって構成されております。

・だれもが参加できる市民マラソンとして定着しており、黒羽地区の冬の風物詩となっております。

・課題としては、さらなる参加者を募り、黒羽地区の特性を生かした運営ができないか検討してまいりたい。

スポーツ関連の協議の場ということで、5年後のオリンピック・パラリンピック及びその2年後開催予定の国民体育大会について、大田原市の現状、県の現状、スケジュール等について説明いたします。

○事務局（スポーツ振興課）

まず東京オリンピック・パラリンピックについて、県ではトレーニングキャンプ地の受入、誘致を実施しており、トップアスリートとの交流や地域スポーツの振興、国際理解にもつながるといふことで実施しております。

大田原市としましては、県北体育館を中心にバスケットボールを中心にキャンプ地に名乗りを上げて誘致活動を実施しております。

その2年後開催の第77回国民体育大会について、現在開催協議の3次選定まで完了しております。大田原市は県北体育館において、相撲及びバドミントンの全種目の開催が内定しております。

平成28年2月に最終の4次選定があり、決定していない12競技があり、その中にはソフトボール、柔道などがあります。平成28年度は会場の決定ということで中央視察団が県内に入り、改めて開催地決定となります。

平成31年度には日時が決定され、9月から10月下旬の設定となる予定となり、県の実行委員会が正式に発足し、各市町においても実行委員会が組織される運びの予定であります。

平成32年度には、競技会場の最終的な整備がなされ、平成33年度には、リハーサル大会を実施し、平成34年度に本番を迎える予定であります。

県においては、対策本部ということで9,300万円の予算を組み、旧競馬場跡地に総合スポーツゾーンということで新競技場の整備を進めていくことになっております。

市としましても県の動向やそれぞれの強化対策を見ながら、本市の施設整備も進めてまいりたいと考えております。

○市長

事務局より説明がありましたが、まず大田原マラソン大会について質疑をお願いします。

○市長

実行委員会において、パリマラソンの派遣については検討が必要と思いますがどうでしょうか。

○事務局（スポーツ振興課）

当然ながら、派遣については実行委員会に諮っていきたいと考えており、現在情報収集に努めているところであります。

○川上委員

今年から受付を省略ということですが、本人の確認などは特に必要ないのでしょうか。

○事務局（スポーツ振興課）

別な形ですが、譲りあいという制度があり、別の大会に重なってしまったときに変わりの方が走る場合はあるそうです。基本的に自己申告で競技に参加していただいており、そういった心配はないのではないかと考えます。

○市長

説明があったとおり、この大会は若手選手の登竜門となっており、全国にも一目置かれている大会でしょうし、今回初めてNHKの番組から金さんが参加されるということですから、大田原マラソンの名声が高まってきているかと思っております。

- 市 長 現在参加上限となっている5,000人というのは増やすことは難しいのでしょうか。
- 事務局（スポーツ振興課） 駐車場やスタート会場の出入り口など施設面で課題はあります。
- 教育部長 日本陸連からもあまり集めすぎると安全な運営に支障をきたすことになると言われており、現在の施設面からは5,000人の規模が限界と思われます。公認の問題もあります。
- 事務局（スポーツ振興課） 競技志向の方が多数参加されており、説明にもありましたが、4時間という厳しい制限の中で走るものですから、参加者からは、ストレスなく走れるという評価もいただいております。
- 市 長 次にくろばねマラソン大会について質疑を行います。
- 事務局（スポーツ振興課） 親子ペアについて要望があり、3人で走れないかというものがありました。最近では少子化により、一人っ子も増えておりまして、親2人と子1人という組み合わせで走れないか検討してまいりたいと思います。
- 市 長 走れるように実行委員会で検討してもらって良いでしょう。
- 市 長 オリンピック・パラリンピックのキャンプ地誘致については、今後協議や報告を随時実施していただきたいと思いますので準備をお願いします。
- ほかに質問や御意見、御感想などがありましたら、お聞かせいただきたいと思います。
- ほかに質問や意見はないようですので、以上で議題に関する協議を終了します。
- 市 長 次に、次第の4 その他 に移りますが、皆様から何かございますか。
- それでは、先日つくば市において、ICT教育についての研究大会に教育長と参加してきましたので、教育長より概要について報告願います。
- 教育長 2点について報告いたします。1つはICTを利用した授業の最新報告、もう1つは小中一貫校の現状、小中一貫には、一つの施設に児童生徒を集めたものと中学校区を中心にエリア内の小学校と連携していくものを小中一貫型と呼んでおります。
- 佐賀県武雄市、熊本県熊本市、大阪市から報告があり、どの地域においてもICTは有効に活用しており、教育効果も上がっているというこでありました。また、まだまだ工夫の余地は大いにあることも今後の課題としてあるということです。

○教育長

ICTを用いた小中一貫について、本市はまだ研究中有りませんが、同席したICT支援員の話からは、利用の仕方については、本市の方がはるかに進んでいるということでありました。

小中一貫について、再来年の予定でございましたが、市長の強い要望もあり、来年度から若草中学校区、金田北中学校区で実施する予定であります。

準備や課題もありますが、再来年にはすべての中学校区で小中一貫型の授業を実施してまいりたいと思っております。

本市では、ほとんどが小中一貫型となりますので、ICTやタブレットを駆使した取り組みが必要であり重要になってくると思われまます。

電子黒板の利用や各種行事等の打ち合わせにもICTは有効なので積極的に利用していきたいと思っております。本市においても、さらにICTを利用した授業づくりを進めてまいり、小中一貫型教育を広め、充実させていければと思っております。

○市 長

ありがとうございました。

新しい流れというわけではありませんが、当初野崎地区で一貫型教育をとという話もありましたが、立ち消えになってしまいました。その後、国の動向を見てみますと小中一貫型によって中1ギャップのみならず、心から心身ともに鍛え上げていく上での分かれ目が小学4年生あたりということがわかってきまして、小中一貫の有用性が高く、早くから導入している学校では、すでに成果を上げているようであります。

教育長には、そういったこともあって早急に導入してほしいとお願いしております。研究だけでなく実践的に取り組むことで学ぶことも多いのではないかと思いますし、他の自治体の後塵を拝することのないようにしたいと思っておりますので、委員の皆様にも研修やご助言をお願いしたいと思っております。

○日原委員

ICTの教育を否定するものではないのですが、研究授業も拝見しまして、算数の授業で子供たちが答えを入力していきますが、終わった時に何も残らないということに多少不安を感じました。やはり、ノートに書き取り、その積み重ねが記憶になっていくのかと思いますので、そのあたりでツールとしてうまく使ってほしいと思っております。

○教育長

ICTの一番の課題であると思っております。先生方は、ワークシートを生徒から預かり、それにコメントして返すということでフォローアップしていくことが大事だと思っております。

○市 長

事務局で何かありますか。ほかになければ事務局にお返しいたします。

○教育部長

以上をもちまして第4回総合教育会議を閉会させていただきます。

ありがとうございました。

閉会：午後2時25分